◉五所神社本殿

五所神社の本殿は、桃山時代の遺構を残す江戸時代の神社建造物で、唐破風・千鳥破風、入母屋造、屋根は栩葺きとなっており、中心となる身舎は数多くの彫り物で装飾され、色彩が施されています。（蓮沼イ）

◉百人塚（本須賀）
千人塚（松ヶ谷）

1703年11月22日に起きた地震による津波の犠牲者を葬った墓。死者は何千人とも言われ、津波の難なきよう祈って建立されました。

千人塚

百人塚

◉木造釈迦如来座像（宝聚寺）

像高57cm、檜材の寄木造。おだやかで親しみのある面貌とふくらみのある肉身表現が特色。鎌倉末期から室町前期の作と推定されています。（川崎）

Memories of the Land: The History of Sammu

Traces of human beings in the Sammu district date back to the late Old Stone Age. From the Kofun period (ca 300-710), there are many burial mounds belonging to powerful families that extended their influence over the region at that time. In the middle ages, the area came under the control of various powerful samurai, such as the Chiba family. And in the Edo period (1603-1868), much of the land was either under the direct control of the shogunate or under the control of retainers of the shogun.
The district was an agricultural belt, but in the second half of the seventeenth century seine nets became widespread, and sardine fishing flourished. During and after the Meiji period (1868-1912) the villages moved forward on the path of modernization, and around 1955, following World War II, they merged to form Naruto-machi, Matsuo-machi, Sanbu-machi, and Hasunuma-mura. Sammu City was formed through a merger of these municipalities in March 2006.

神々の里

は、群雄割拠して相争った戦の時代が偲ばれます。

その後、1600年の関ヶ原の戦いで徳川方として戦った成東城主の石川康道が、3万石を加増され美濃大垣藩へ転封されたために鳴滝藩は廃藩。その後、江戸時代を通じて山武地域の多くは幕府の直轄領や旗本領となりました。

この時代、村人たちの多くは農業生産に従事していましたが、17世紀後半には九十九里浜で地引網が普及しました。また、山武の代名詞でもある山武杉は、この時代に盛況を極めた九十九里イワシ漁の用材として植林されたのが始まりとされています。

また、農民の間に朱子学の系譜をひく上総道学といわれる学問が普及しました。全国でも希有な事例といわれています。

江戸時代半ばの1703（元禄16）年に発生した房総沖を震源地とする地震は、マグニチュード8・2という巨大なものでした。地震による大津波が九十九里浜一帯を襲い、死者は2400人を数えたと考えられています。近代に至るまで、人々は、こうした自然災害や度重なる飢饉と戦っていました。

1590（天正18）
◎成東兵庫介将胤、小田原で戦死。石川康通、成東城主となる

1591（天正19）
◎嶋戸村、水深村で検地が実施される

1600（慶長5）
◎石川康通、関ヶ原に参戦

1601（慶長6）
◎石川康通、美濃大垣に移封

1604（慶長9）
◎八田村で検地が実施される

1618（元和4）
◎浪切不動院中興開基

1661（寛文1）
◎このころ九十九里浜に地引き網が普及

1679（延宝7）
◎荻生徂徠が父・方庵とともに本納村に移住

1680（延宝8）
◎この頃、多くの庚申塔が建てられた

1700（元禄13）
◎成東の大部分が結城水野藩の上総分領となる

1703（元禄16）
◎関東諸国大地震、房総沖に大津波襲来

1727（享保12）
◎酒井脩敬、成東津辺境橋掛之工事に来る
◎水深村・馬渡両村と水下6か村（新井堀村・下野村・本郷村・下之郷村・広根村・和田村）との水論、証文取交わし決着

1750（寛延3）
◎板川新田・中津田新田できる

1760（宝暦10）
◎麻生新田できる。この頃より、原野に植林するものが多くなる

1799（寛政11）
◎稲葉黙斎が没す、元倡寺に葬る

1830（天保1）
◎木材使用が多くなり、上総建具の生産が盛んになる

1840（天保11）
◎勝覚寺に芭蕉句碑建立

1846（弘化3）
◎堀田正睦、九十九里浜を巡視する

1863（文久3）
◎真忠組事件おこる

1867（慶応4）
◎柴山文平、安房上総知県事となり、成東町の大部分がその支配下となる